

芸術家「平和訴え」飛行機で描く



広島市上空に描かれた「ピカッ」の文字=21日午前11時20分、広島市西区から撮影 (読者提供)

広島上空「ピカッ」の文字

現代美術館 市民「不気味だ」立ち会う

二十一日午前、広島市の上空に「ピカッ」の白い文字が飛行機で描かれた。東京の芸術家集団が、平和を訴える作品制作として原爆を意味する言葉を表現したという。だが、市民や被爆者からは「不快だ」「気持ち悪い」との声が上がった。市現代美術館(南区)も関連の現場に立ち会っており、その判断にも批判が出ている。

目撃した市民による「上空を飛行。五回にわたって、小型機がスモークを出しながら飛行し、一帯に「ピカッ」の文字が浮かんだ。西区の女性(28)は「『ピカドン』を連想させる。不気味だった」と不安感を訴えた。中国新聞社には問い合わせの電話が相次いだ。

企画したのは芸術家集団「Chim↑Pom(チン↑ポム)」。独自にチャーターした飛行機は午前七時半から正午まで、断続的に

「Chim↑Pom」(チン↑ポム) 東京在住の若手芸術家6人で結成した。大都会のネズミを捕獲し、はく製にしてアニメのキャラクター、ピカチュウの関心と呼びかけた。念公園(中区)から、原爆ドームと文字を一緒に収める構図で写真とビデオを撮影した。十一月から市現代美術館で開く作品展に向けた創作活動という。

リーダーの卯城竜太さん(31)は「問題なのは予測していた。被爆者を傷つけたとしたら心が痛むが、若者と戦争を知らない世代の関心と呼びかけた」と主張する。平和記念公園での撮影には市現代美術館の学芸員も立ち会った。神谷幸江学芸担当課長は「悪ふざけではないと信頼している。作家の行為の是非については私が判断できない」と説明。「どんな議論を生むか、そこが面白いところ。被爆者団体の意見がすべてではない」と指摘。現代美術に精通したフリーの学芸員(56)は「反感

ウのように黄色くした「SUPER RAT」で反響を呼ぶ。2007年、広島市現代美術館の「新・公募展」に、カンボジアでの地雷撤去をモチーフにした作品を出し、大賞を受賞。

「事前にも適切な助言をする必要があった」と苦言を呈した。五歳で被爆した東区の画家入野忠芳さん(68)は「市は、東京や海外の芸術家が『ヒロシマ』や『原爆』をテーマにしているというだけで、無条件に作品を受け入れている印象だ」と指摘。現代美術に精通したフリーの学芸員(56)は「反感

3キロ引きずられ死亡

未明の大阪 ワゴンタイプ？逃走

二十一日午前四時十五分ごろ、大阪市北区梅田の国道17号交差点で、堺市東区関茶屋、会社員鈴木源太郎さん(30)が車にはねられて引きずられて行き、約十分後、約三キロ離れた大阪市福島区吉野の市道に倒れて死亡しているのが見つかった。車は逃走した。大阪府警交通捜査課は自動車運転過失致死と道交法違反(ひき逃げ)容疑で曾根崎署に捜査本部を設置。車はワゴンタイプとみられ、行方を追っている。運転手が人を巻き込

